

＜ 合歓のうた ＞

いのち — 生命の連鎖 —

一ヶ月遅れの田舎の盆。我家の夏の恒例行事は墓参りです。早朝五時に出発、高速道路を一路ご先祖様の元へ…。

四方を山に囲まれ、こんもりとした森の中に椿の大木に守られて墓石が並んでいるのです。静寂に包まれて、草を抜き、枝を整え、墓石を洗い「ホッ」と一息。花、供物、線香を手向け目を閉じて手を合わすと蝉の音が…。瞬間、亡き母の口癖「ご先祖様が会いに来てくれたヨ」がささやかれたようで耳を澄ませたことでした。

（昔からの言い伝えのようなのですが、盆や墓参りの折に出会う虫やその鳴声は、形を変えたご先祖様そのものなのだそうです。）

— 蝉しぐれ ^{さや} 清けき想い

つなぐ盆 — 合歓

人に父母が在り、その父母各々に父母が在り、その各々の父母に又、又父母と…。数十年、数百年をさかのぼると、会ったことも話したこともないご先祖様と脈々とつながり、宇宙のキラ星の如く果てしが無いのです。そして、その生命のバトンは次の世代へと渡されつながってゆくのです。

生命の連鎖ははかり知れず
猛暑での墓参りは先祖からの加護
出会えた生命、育ちゆく生命、今ある生命への
感謝でした。

